

ハウルの動く城

2004(平成16)年10月7日鑑賞(試写会・ナビオ TOHO プレックス)

★★★



監督・脚本＝宮崎駿／声の出演＝倍賞千恵子／木村拓哉／美輪明宏／我修院達也／神木隆之介／大泉洋／原田大二郎／加藤治子（東宝配給／2004年日本映画／119分）

……ヒロインは90歳の少女。恋人は弱虫の魔法使い。そして、ふたりが暮らしたハウルの動く城。こんな設定の宮崎駿監督の最新作アニメだが、私にはその出来はもうひとつ、と思えてならない。それは、私のアニメ嫌いのせいなのか……？ それにしても、「全世界注目の感動超大作」という前宣伝には、ちょっと抵抗感が……？

ピンとこない映画のテーマとそのストーリー……？

私は予告編で、奇妙な形をした4本足で動く「城」そのものを何回も観たが、この映画自体が何をテーマとし、どんなストーリーなのかは全くわからないままだった。映画が始まり、ストーリーが展開していくにつれて、あなるほど、こういうテーマで、こういうストーリーだったのかということにはわかってきたが、はっきり言って、私にはそのテーマとストーリー展開はかなり不満で退屈なもの……？

状況設定は、19世紀末の戦火の中のヨーロッパ。テーマは其中で生きる人間の楽しさと愛する喜び。そしてそのストーリーは、90歳のヒロイン、ソフィー（倍賞千恵子）と弱虫の魔法使いハウル（木村拓哉）とのラブストーリーというものだが、そのいずれも私にはピンとこない。これは、私はもともとアニメが好きでないため、アニメの画像からは緊張感や感動が私に伝わってこないからかもしれないが……？

原作は？

この映画の原作は、イギリスの児童文学作家ダイアナ・ウィン・ジョーンズ著

の『魔法使いハウルと火の悪魔』（徳間書店刊）とのこと。もちろん、私はこの原作を読んでいないが、果たしてこれを読めば、パンフレットに書いてあるようにソフィーとハウルの“戦火の恋”を通して、生きる楽しさ、愛する喜びを感じることができるのだろうか……？

木村拓哉と倍賞千恵子の声優ぶりは？

この映画では、木村拓哉を主人公ハウルの声優に起用したことが大きな話題となった。木村拓哉は、王家衛監督ウヨン・カーウアイの話題作『2046』（04年）に日本人俳優として起用されたが、冒頭の長いナレーションも担当している。一流のミュージシャンは、何をやってもそれなりにこなせるものだと感心。もっとも、この映画でのハウルはちょっと軽すぎる……？

他方、18歳の少女ソフィーと90歳にさせられた老婆のソフィー両方の声優は、フーテンの寅さんの妹さくらであり、昔の清純派女優にして、かつて『下町の太陽』を歌って日本レコード大賞新人賞を獲得した美声の歌手でもある倍賞千恵子。この作品でも、最後に流れてくる主題歌『世界の約束』は、『千と千尋の神隠し』（01年）における『いつも何度でも』ほど大ヒットするとは思えないものの、それなりに美しいメロディの歌。それにしても、この年までよく頑張っているもの（？）だと感心……。

ネタ不十分……

以上のように、私の感受性が鈍ったせいかもしれないが、この映画に私は感動しなかったし、私の興味や関心が湧いてこない。そのため、原作を読んでみようとか、19世紀末の「戦火のヨーロッパ」の中でなぜこのような魔法と科学が混在する世界が描かれたのかについての研究心（？）も湧いてこない。そのため、どうもこの映画については、私の書くネタが不十分。よって、世間の注目を集めるはずのこの映画についての私の評論は以上で終了……。

2004(平成16)年10月8日記